

いのちと地域を守る

防災・減災のページ

個別避難訓練

鈴木とくえさん(65)、聡太君(6)



聡太君「ばあちゃん、揺れたら逃げてね」



ブロック塀から離れて避難する鈴木とくえさん(右)と孫の聡太君
—七ヶ浜町花浜地区



むすび塾

七ヶ浜町花浜地区
60分を11分37秒で歩いて、地域の危険箇所を回り、孫の心算練習を繰り返して、聡太君は「揺れたら、おばあちゃんを助けてね」という言葉を思い出して、避難した。

@宮城・七ヶ浜町花浜地区



避難距離・・・860メートル
避難時間・・・11分2秒

ブロック塀 要チェック

■海岸林は流失
この危ないと思う? 聡太君「ばあちゃん、揺れたら逃げてね」
宮城県大正町花浜地区の鈴木とくえさん(右)と孫の聡太君(6歳)が、避難訓練の途中、ブロック塀の危険箇所を回り、孫の心算練習を繰り返して、聡太君は「揺れたら、おばあちゃんを助けてね」という言葉を思い出して、避難した。

■お年寄りと孫ら、歩いて確認

個別避難訓練 大津波を想定し、お年寄りと孫らが個別に避難場所やルートを探す。危険な場所などを確かめ、避難の課題を探る。お年寄りの逃げる意欲を育むのと同時に、お互いの信頼関係を強めるのが狙い。

高知県四万十町の興津地区で昨年6月に始まった。京大防災研究所の矢野克也教授(防災心理学)が協力する。小学生が高齢者の避難訓練に同行し、地域の防災意識を高めている。

阿部寛喜さん(79)、知子さん(69)、泉人君(9)



泉人君「夜は真っ暗になりそう」



上り坂を歩く(右から)阿部寛喜さん、知子さん夫婦と、孫の泉人君—宮城県山元町坂元

■狭い坂道続く
山元町坂元は、狭い坂道が続く。避難訓練は、お年寄りや孫らと一緒に、避難場所やルートを確認する。危険な場所などを確かめ、避難の課題を探る。お年寄りの逃げる意欲を育むのと同時に、お互いの信頼関係を強めるのが狙い。



@宮城・山元町坂元町地区



避難距離・・・564メートル
避難時間・・・8分12秒